

ごあいさつ

染織家であった父のもとで、25歳頃から手描き友禪のいろはを覚え、40歳になって初めて伝統工芸展に初出品以来、職人から作家という分野で今日を迎えました

修行時代は夢中で筆を持つのみで、師である父からはあらためて指導を受けた記憶はありませんが、今もその時代の父の心意気が生きているのを感じながらも、どうしてももっとしっかりと父の仕事を見ていなかったのかと思うときがあります

幸いに創作の道を歩んでからは、多くの方との出会いの中で作家としての指針を得ることができました。2003年の秋に、計らずも千葉県の上屋文化振興財団より賞をいただき、これを機に今までの出品作の一部を作品集として作成する機会を得ましたことに、財団をはじめ、ご指導賜りました方々に感謝申し上げます

これからも、私なりの伝統工芸としての友禪の世界を見つける努力を惜しまず、自然体で時代を超越した文様の美学を追及して参りたいと思います。

中澤英高